

岩沙 弘道氏

三井不動産 取締役社長

#128



紹介者



大歳 卓麻氏

日本アイ・ビー・エム 取締役社長執行役員

わが国のサステイナブルな経済成長のためには、全国の各地方が、それぞれの個性や独自性を大切にしながら力をあるまじく力を通じて活力を取り戻し、自立を遂げていく必要のあることは誰も異論のないところであろう。しかしこの問題が、相変わらず大都市圏、とりわけ東京対地方という対比の構図で議論されがちであることには違和感を覚える。東京との格差ばかりを論じることが地方に対する建設的なソリューションにつながるとは思えない。誤解していただきたい

次回

北山 禎介氏

三井住友フィナンシャルグループ 取締役社長

にご登場いただきます。

くはないが、差や違いは明快で大きいほうが個性を際立たせる。今日のような情報社会では、明確なキャラクターが情報発信できて初めて、存在として認められ、確たるポジションを占めることができる。日本中がみな東京になろうと思う必要はないのである。仮にもし本当に何もないのであれば、それはむしろこの過剰、飽食の世では一つの個性である。まったく音のない本物の静寂や、人為的な光に邪魔されない漆黒の闇なら価値がある。いや、実は逆で、地方こそ豊かな資源を持っているのだ。自然力も人間力も文化力も、大都市にない魅力として備わっている。風光明媚な自然景観、きれいな水と空気、変化に富んだ四季の移り変わり、落ち着いた風情ある街並み、濃やかな人情や潤いのあるコミュニティ、独特の行事・風習、ふるさとの民話・伝承や伝統芸能、安全で新鮮な地産地消の食材や美味しい郷土料理、きらりと光る地場産業などなど、日本各地にときめきや感動を与える素晴らしいものがたくさんある。相対的によく整備された空港、港湾、道路など、過去の公共投資の蓄積を活かすこともできる。そう考えてみると、本当は豊かな地方に、今一番欠けているリソースは、産業

古い地図は捨てるべし～地方再生の新視点

や資本・資金、人材、あるいは税収と権限などといったものではなく、自らの美点や潜在力に対する自信ではないだろうか。地方はいの意味でもっと自己中心的な考え方を持つべきだ。もう東京中心に描かれた日本地図は破り捨てて、自分のまちを中心に置いた地図に掛け替えたらい。躍進著しい東アジアの中の自分のまち、という新しい視点を持てば、いろいろなことが見えてこようし、自分のまちが世界のどこと結び付いたらいのか、地方間の広域連携はどうあるべきなのか、さまざまな新しい価値創造の戦略が生まれてくるに違いない。